

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 10月16日

【評価実施概要】

事業所番号	2674000233
法人名	株式会社日本メディケアサポート
事業所名	京都グループホームそよ風
所在地	〒615-8151 京都市西京区榎原杉原町6番地 (電話) 075-383-0360

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2-1-21 八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成19年9月26日	評価確定日	平成19年11月19日

【情報提供票より】(平成19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	16 人
職員数	18 人	常勤 15 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 16.2 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3 階建ての	2 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	(有) 300,000 円		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1500 円	

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	16 名	男性	3 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	7 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	77 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西京都病院 香川歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな住宅街に立地する、3階建ての複合施設の中にあるグループホームです。一階にはデイサービスがあり、行事の際には参加したり、大きなお風呂でゆっくりと入浴したり、一緒に趣味のことを楽しんだり、併設ならではの可能な事も多くあります。お誕生日の企画として、個人の希望を叶えるという試みがあり、職員と一対一で行きたいところへ行ったり、してみたい事をしたりと、楽しみ事を提供されています。理念でもある「高齢者の尊厳を守る」ということを徹底されており、職員の入居者に対する接し方、態度は穏やかで、優しい雰囲気を感じました。職員は、入居者の現在持っている力を最大限に発揮できるようにされていて、過剰なケアをせず、できることできそうなことを見極め、見守りの姿勢を徹底されています。何時もその人を中心ということを考えてケアされていることは評価できます。五山の送り火の見学をしたり、お月見に出掛けたりと、京都ならではの行事や、高齢者にとっての昔ながらの行事も大切に考え実行されています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で話し合った改善点については、実行できるように、前向きに考え取り組まれています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、各ユニットのリーダーを中心に、全職員で話し合われました。自己評価をすることで、自然と改善点が把握でき、今後の取り組みに活かしていけることを期待します。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	自治会長、民生委員、地域包括センターの職員、家族、ホームが集まり、2ヶ月に一度、運営推進会議を開催されています。その時々に関心のある議題を出して話し合い、参加者からは様々な意見や、アドバイスをもらうことが出来、有意義な場となっています。今後は、運営推進会議の日程等の年間計画を出し、多くの方々の参加を促したいと考えられています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、請求書の送付時には担当者が入居者の様子や、状態を書いた個別の手紙を同封されています。家族からの意見や疑問は、すぐに返答できるように取り組まれています。家族の訪問の際には、入居者の様子や状態の話をし、介護計画の同意のサインをもらうときには、一言意見を書いていただいています。更に思いを把握する為、また、ケアの向上に活かす為に、家族対象のアンケートを実施されています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に参加し、委員も努めている関係上、行事計画段階から参加され、地域の一員としての活動をされています。地域の敬老会や運動会に参加したり、一緒に草刈をしたりして、良好な関係となっています。ホームを更に知っていただく為に、ホーム主催の行事に、地域の方々の参加を働きかけられてはどうか。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑いのある生活、高齢者の尊厳を守った暮らしを」の法人の理念は、そのままホームとしての理念であり、入居者が毎日笑顔でその人らしく暮らせるようにとの思いで、日々取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	高齢者の人格と人権を尊重するということは、職員間の共有の思いや合言葉となっている。センター長も参加する毎朝のミーティング時には理念を読み上げて、意識を統一させている。不適切な言葉がけがあった場合は、その場でリーダーが、疑問を提案し、指導するという体制ができています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、委員も努めている関係上行事計画段階から参加している。地域の敬老会や運動会に参加したり、一緒に草刈をしたり、良好な関係ができています。回覧板もまわしてもらっている。	○	ホームを知っていただく機会にもなるように、ホーム主催の行事の際には、地域の方々にも参加して頂けるような働きかけも期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、各ユニットのリーダーを中心に、全職員で話し合った。前回の改善点についても、前向きに考え、実行できるように取り組んでいる。	○	自己評価をすることで、自然と改善点が把握でき、今後の取り組みに活かしていけることを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、地域包括センターの職員、家族、ホームが集まり、2ヶ月に一度、運営推進会議を開催している。ホームの取り組みや、認知症についての話をしたり、議題を出して話し合っている。参加者からは様々な意見や、アドバイスをもらうことが出来、有意義な場となっている。運営推進会議の日程等の年間計画を出し、多くの方々の参加を促したいと考えている。		

京都グループホームそよ風

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に二回、市からの介護相談員を受け入れている。西京区とは、運営推進会議の会議録を持参した際、担当者と話をしていて、顔なじみにはなっている。	○	意見や情報をもらえる機会となるように、今後は、運営推進会議等に行政からの参加を働きかけてはどうでしょうか。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、請求書の送付時には担当者が入居者の様子や、状態を書いた個別の手紙を同封している。同時に、お小遣い程度の預かり金は、個人別の出納帳で管理し、領収証を付けて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。ホーム側や行政の相談窓口も文書に明記している。家族の訪問の際には、入居者の様子や状態の話をし、介護計画の同意のサインをもらうときには、一言意見を書いていただいている。介護相談員との話し合いの結果も、必ず家族に報告し対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの関係が続くようにとの配慮はしている。ユニットごとの異動はあるが、書面で入居者の情報を引き継いでいる。なるべく不安を与えないようにということを第一にえている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームでは、外部研修の機会を利用し、順次参加できるようになっている。ホーム内でも2ヶ月に一度勉強会を行っている。グループホーム協議会の新人研修にも参加している。	○	今後は、年間の研修計画をたて、職員のステップアップを図られることを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、交流を持ち情報交換している。近所のホームとは合同で行事を行い、職員同士、入居者同士の交流も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の方には、見学に来てもらったり、一泊で体験入居をしてもらったりしてホームに馴染めるかを見極めている。入居前には、本人、家族と十分な話し合いの場を持っている。併設のデイサービスの利用から入居に至るケースもあり、戸惑いや混乱は少なく馴染みの関係が自然にできる方もおられる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩であることを念頭に、入居者の、今までの体験からの家事や風習を教えていただいている。日々の生活の中で、共感の姿勢で接している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの気持ちに添って、ケアすることを心がけている。センター方式で、細部にわたっての聞き取りで把握できたことを職員間で共有し、一人ひとりの思いを大切にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式で情報を収集し、入居者や家族の意見、希望をとりいれ、職員間で話し合ったことを基に、ホームでの生活に密着した介護計画を立てている。その時々々の優先順位を常に把握し、良い状態で居られるように考えて作成している。医療的なことも盛り込んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は、長期目標を6ヶ月に一度、短期目標を3ヶ月に一度の見直しで、状態の変化にはすぐに対応している。カンファレンスを開催し、職員間で話し合い、計画の評価、モニタリングを行い、再アセスメントにつなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設にデイサービスがあり、身体機能が低下し、一般入浴が困難になった場合は特浴を利用できたり、行事の際には参加し、楽しむことができる。個別としては、通院の際の送迎をしたり、家族が遠方の場合は、行政手続きを代行している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関からの往診が週に一回ある。歯科医の往診もある。緊急時には、24時間連絡体制があり、すぐの対応も可能である。入居前からの主治医を継続して受診することもできる。デイサービスの看護師からの協力もあり、安心できる医療体制である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り指針については、運営推進会議で話し合ったことがあり、考え方に間違いがないかどうかの意見ももらった。病院からの協力も約束しており、その時になり、受け入れが出来る状態であれば、最期を看取りたいと考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	基本方針にもあり、プライバシーには十分に配慮し、一人ひとり言葉がけにも注意している。管理者やリーダーからの指導もある。今後は、禁句事例集を作り実行していきたいと考えている。また、法人の個人情報取扱い規程があり、漏洩がないように、記録物は、事務所の扉付きの書庫に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に希望を聞き、意思確認をしながらケアすることは基本にある。例えば、入浴時間は希望の時間に入って頂いている。就寝時間や、起床時間も自由である。今後は、更に希望に添えるように、人員配置を考えている。		

京都グループホームそよ風

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望をとりいれた献立を考えている。また、季節を感じるような食材や、チラシを見ながら考えた献立等、様々な工夫している。調理、食事、後片付けと、入居者と一緒に行っている。入居者からは、味付けや調理方法を教わっている。食事は、入居者と職員が同じテーブルを囲み、サポートしながら食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前から、夕食前くらいまでなら、自由に選んでもらい希望を尊重して、ゆっくりと入浴してもらっている。お風呂の好きな方には、毎日でも可能であり、入浴できない時は、清潔保持の為、足浴等を行っている。デイサービスの大きなお風呂に入ることもできる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今までの趣味や得意なこと等を、継続してできるように支援している。一人ひとりのお誕生日には、個人の希望を叶えるように取り組んでいる。例えば、行きたい場所へ出掛けたり、好物の嗜好品を楽しんでいただいたりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外へ行きたいと思われた時には、すぐに外へいけるような支援をしている。気候に合わせて、毎日でも散歩にも出掛けている。出掛けたがらない方にも、働きかけて外へ行く機会を作っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	法人の玄関は、日中は鍵を掛けていないが、各ユニットのエレベーターは、システム上ロックされている。自由な暮らしの支援を考えているので、外へ行きたいと思われた時には、すぐに外へいけるような体制を作っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に関しては、年に二回、消防との協力で、避難訓練を行っている。地域とは、お互いに協力しあうことを約束している。運営推進会議でも話し合っている。		

京都グループホームそよ風

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は把握し記録に残している。栄養バランスやカロリー等、食材提供の栄養士からのアドバイスももらっている。栄養についての研修会にも参加している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感がある飾り付けがされていて、家具類や、調度品も家庭的である。エレベーター前や廊下には椅子やソファを配置し、好きな場所で過ごせるようになっている。電球も暖かみのある落ち付いたものを使用し、窓を開けている時は、ホーム内に心地よい風が流れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いたれたなじみの物やこだわりの物を持ってきてもらい、その人らしい、居心地のいい居室作りがされている。仏壇や家具など、自分の大切な物を持ってこられている。趣味の物を持ち込まれている方もいる。	○	居室が広く空間に余裕がみられる。もう少し私物を持ちこまれたり、その方らしい居室作りの更なる工夫を期待する。